

## 機器に無事を伝える

小さいころ見たSF映画の世界が、現実化しています。ウェアラブルデバイス(WD)とは、手首や腕、頭などに装着するコンピューターデバイスのことです。

新しいものが好きな80歳前後の女性が、腕時計型のWDをつけて、散歩をしていたときのこと。何かにつまずいてしまい、ひどい転び方をしてしまったといいます。

その際、「強い衝撃を感知しました、ケガはありませんか？ 救急車を手配しましょうか」との声が聞こえたのだとか。

周りには誰もいなかったので、腕時計型のWDが話しかけてくれていたと気づいたといいます。幸い、ねんざも骨折もなかったので、WDに無事を伝えたそうです。

## いつでも何でもお手伝いを

老老介護で、夫の世話をする80歳の夫人。ストレスが溜まり、夫が眠った際、うちに来ては、イロイロと話を。

ショートステイをする施設への不満、ケアマネジャーへの不信感、諸手続きの煩雑さなどです。私自身、義父の介護で、同様の経験をしていたので、的確な答えを差し上げられました。

夫人の疲れが限界に達したのでしょうか、視界が狭くなり、見えない部分が出てきたので、病院へ行って精密検査をしたといいます。結果、県内で40~50人しかいないという多発性硬化症・視神経脊髄炎という難病と診断されました。

## 店頭から 「こんにちわ」

第126回

古い世代は、AI（人工知能）における技術の進歩には、ビックリさせられていることでしょう。自動車の自動運転。ドローンでの宅配。五輪開会式するとき、空中に文字なども浮かび上がらせた。

# 必ずしも心身の健康相談だけとは限らないケースも 薬局として高齢者の目になることも大切

確立された治療法はなく、ステロイド剤で悪化しないようにしていくとのこと。

よくも悪くもならず、2年が過ぎたころ、「夫が亡くなりました」と。役所への諸手続きで、頭が混乱していたときに、県外に在住の息子さんから、「会社ですぐに必要なため、戸籍謄本をスマートフォンで撮影して、送ってくれ」との電話が——。「そんなことをしたことがない」と、相談にみえました。

ほんの2~3分で解決。

1週間ほど経って、またスマートフォンを持ち、来店。「さっぱり繋がらないから、薬局へ行って直してもらってくれ」と、息子さんに言われたとか。

「息子に直し方を教えられたけれど、目が悪いし、小さな画面の小さな文字なんて読めませんよね」

「大丈夫です。これからも、目の代わりになってあげますから、いつでも、何でもお手伝いしますよ」

翌日、「言葉がうれしくて」と、魚屋さんで買ってきたばかりのナメタガレイの切り身と、イチゴをいただきました。

薬局の仕事は、さまざまなのです。

宮川薬局(宮城県仙台市)代表  
薬学博士・薬剤師

みやがわとしじ  
宮川季士先生

プロフィール

1976(昭和51)年、東北薬科大学(現・東北医科薬科大学)卒業。'78(同53)年、同大学大学院修士課程修了。'87(同62)年、薬学博士学位。地域に根ざしたおクスリ屋さんとして、多くのファンが。「ムシムシしますね。ストレスの発散を」

